あいの助密書

～愛・逢・1～のあいの助

お陰様で第24号
発行所
有限会社猪木酸素
玉島店
ライフサポートあい
の助岡山営業所

第2回　勝手に本屋大賞

第一部（今年も無許可）

地域の皆様の暮らしを「陰ながらそっと支える」をモットーに日々活動中の有限会社猪木酸素玉島店ライフサポートあいの助です。今年もやります。第2回「秋の夜長に本を読もう！あいの助スタッフが勧めるこの一冊。あいの助　勝手に本屋大賞」お付き合いの程、宜しくお願い致します。

杉山お勧めの一冊

筧裕介　著

「認知症世界の歩き方」

この本は、認知症のある人自以上にインタビューを重ね、その語りをもとに、認知症のある方が経験する出来事を、「旅のスケッチ」と「旅行記」の十三のストーリーにしてあり、まるでご本人の頭の中から世界を覗いているかのような感覚で読むことが出来ます。

イケメンも美女も、見た目が関係ない「顔無し族の村」や、時計の針が一定のリズムで刻まれない「トキシラズ宮殿」、「乗るとだんだん記憶をなくすミステリーバス」などなど・・・、ドキドキしながら時間も忘れて読んでしまいました。

最近、以前から大好きだったテレビドラマのストーリーが覚えられなくなり、「この人誰だったかな。前の回は見忘れたのかな。」と、不安そうな母と過ごす日々の中で、認知症についての難しい本を手に取って読んでみても母の症状とは違っていてピンとこなかったり、不安で暗い気持ちになることがありました。

この本を読んで、逆に私たちが普段当たり前と思ってやっていることが、いかに難しいことだったかを知ることになったりもしました。いつか大切な家族や自分が生きる世界が今よりもっと難しいものに変わっていったとしても、それを少し心の余裕をもって受け止めたり、家族みんながちょっとずつでも心地よく過ごすためのヒントが、この本には沢山ありました。未来は思うほど怖くないかも知れないな、と感じる事ができました。

秦お勧めの一冊

宮部みゆき　著

「過ぎ去りし王国の城」

中学三年生の主人公が拾った中世ヨーロッパの古城のデッサン。分身を書き込むと絵の世界に入り込めることを知り、同級生で美術部員の友達に制作を依頼。絵の世界で塔に閉じ込められたひとりの少女に出会う。彼女は誰か、何故この世界は描かれたのか。探索する仲間も加わり、謎を追う中、十年前に現実の世界で起きた失踪事件が関係していることを知る…。

宮部みゆきさんは様々なジャンルの小説を書かれるのですが、今回ご紹介するのは冒険小説。読み始めるとどんどん先が気になり、自分で推測しながら読み進めていくうちにすぐ読み終わってしまう。そんなミステリーの感覚が小さい頃から私は好きで、ぜひ読んでみて欲しい一冊です。

田中（弟）お勧めの一冊

伊吹有喜　著

「今はちょっと、ついてないだけ」

主人公は四〇代の独身男性。大学生の時に大学ＯＢからの誘いを受け、テレビ番組に出演し有名人になったが、その後そのＯＢの借金の保証人になってしまい、返済のため働き続ける人生に。返済が終わった時には四〇代になり「家庭、充実した仕事、落ち着いた暮らし。みんなが普通に持っているものを、僕は何も手にできないでいる」と半ば人生をあきらめかけていた主人公に、転機が訪れる。という物語です。

紙面が足りなくなりました。来月第2部で残りのスタッフのお勧めの一冊をご紹介いたします。

農園の近況～有機農法への道

発表します。今年のマコモダケ収穫高、以上（写真をご参照ください）です。

失敗ながらもゼロではありませんでした。自分としては大きな一歩だと自負しております。

先日、いつもお世話になっている、ゆめの里在宅介護支援センター様に訪問し、今年の成果をお伝えしたところ、ケアマネージャーのA様より、「麦も一回踏まれてから丈夫に育つんだ。失敗続きも将来大きく成功するため必要な経験だ。」と、ご神託のような素晴らしい言葉をプレゼントして頂きました。因みにAさんは、席を離れた隙に、机にお布施のバームクーヘンが積みあがるという奇特な方なのですが、「お地蔵様のようですね」と表現したところ、「クマ牧場の熊なのよー」とおどけて、おねだりポーズをしてくれるとってもチャーミングで暖かい方です。

Aさんの励ましに応えるべく、来年こそ大豊作にしてみせます！